

令和7年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

特9

福岡県立太宰府特別支援学校

自己評価						学校関係者評価		
学校運営計画(4月)					評価(総合)	評価(総合)	自己評価は	
学校運営方針		5つの取組の徹底を通して、児童生徒・教職員・学校を大切に、成長を目指す!チーム太宰府				B		A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標					
学校運営計画に基づく各学部及び各課の目標は概ね達成することができた。特に、指導・支援等について教職員間の情報共有や意見交換を活発に行うことができた。また、超過勤務時間が暫時減少していることも成果として挙げられる。 引き続き授業力向上とともに教職員の専門性向上、人材育成、緊急時対応、災害時の校内体制充実等が課題である。また、教育課程実践交流会に向けて、観点別評価を生かした指導と評価の一体化を図る取組を推進する必要がある。		児童生徒一人一人に適した教育の充実	○児童生徒の実態に応じた指導の充実と学びの連続性の重視 ○カリキュラムマネジメントに基づく資質・能力の育成を目指した授業の充実 ○進路開拓・進路指導・職業教育の充実 ○施設・設備、教材・教具の充実					
		安全・安心な教育環境の充実	○人権を尊重した指導の充実 ○児童生徒指導の充実 ○安全対策の充実(緊急マニュアルの整備と効果的なシミュレーション)					
		信頼される指導・支援・取組の充実	○特別支援教育のセンター的機能の充実 ○ホームページ・広報活動の充実 ○保護者との連携 ○地域と一体となった学校づくり ○指導・支援・取組に必要な諸条件の整備 ○不祥事防止のための断続的な啓発及び研修					
		組織力の発揮・向上・継承の充実	○分掌組織の縦・横のラインを意識した業務遂行 ○諸課題に対する組織的な取組の推進 ○働き方改革の推進による働きがいの向上					
		人材育成及び専門性の発揮・向上・継承の充実	○人材育成・専門性向上 ○外部専門家との連携 ○校内支援体制の充実					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A部門 知的障がい、 教育部門	小	児童の障がいの状態や発達年齢に応じた指導及び安心できる教育環境の充実	児童の障がい特性に応じた関わり方、支援方法についての意見交換会の実施【年2回】	B	B	単元計画の柱に、指導内容及び指導方法の充実に向けて、各学年で検討の時間を設け学び合うことを継続していく。児童の実態や特性に応じた学習形態を検討し、柔軟に対応していく必要がある。  「ちょこっとスキル」や「教師間交流」における好事例の共有をさらに充実させるとともに、理論や根拠を明確にした共有の深化を図り、組織全体として専門性を高める取組を一層推進していく。  学級編成、作業班編成の在り方を変更して2年目で、これまでの取組を蓄積できている。来年度の新体制確立に繋げると共に新体制として初めての卒業生を出すことになるため、進路指導部と共に本体制の取組に関する課題や成果の検証が必要である。		
			教材・教具及び授業づくりに関する情報共有【月2回】	B				
			合理的配慮の観点の踏まえた学習形態や指導内容の充実【随時】	A				
	中	生徒一人一人の障がいの特性や心身の発達段階に適した指導の充実	単元計画を軸とした授業改善サイクルの確立【年2回】	B	B			
			障がい特性等に応じた指導・支援方法に関する情報共有【月2回】	A				
			発達段階に応じた系統的なキャリア教育プログラムの検討と実施【学期1回以上】	B				
	高	卒業後の希望進路の実現と自立と社会参加を目標に、生徒一人一人が社会を主体的に生き抜く力の育成	個々の生徒に対する適切な対応・支援体制に関する情報共有【定期的な学部会実施時】	B	A			
			進路指導部と各学年の連携による進路情報の共有及び作業学習を含めた職業教育の充実【随時】	A				
			コース制を廃した学級編成、作業学習等、新体制における成果と課題の検証及び体制の確立【随時】	A				
B部門 肢体不自由 教育部門	小	児童の実態や課題に応じた目標設定及び指導目標を明確にした授業の実践【随時】	A	A	単元計画をもとに単元途中や実施後の振り返りの充実を図り、授業改善を目指す。学部研修において、肢体不自由教育における基礎基本、行動理解、評価の視点等、専門性を高めるために定期的に学び合う機会を設定する。定期的に児童の情報共有を行い、安全対策に努める。  緊急時対応について、次年度メンバーが変わっても、切れ目ない対応ができるように引継ぎ資料の充実を図る。実践交流会を念頭に、D課程の生徒における観点別評価の意識を高めることができた。次年度は更に、他の教科領域でも「教科内容表」の活用ができるように協議を進めていく。  教育課程について各コースの特性に応じた授業を展開できた。次年度については、教育課程の充実について限られた協議時間の中で効率的な話し合いを行うための工夫が必要である。また学校教育研究で取り組んだ内容を日常の授業の中で実施するための具体的な手立てを考えていく。			
			自立活動の指導法や児童の状態、支援に関する情報共有及び意見交換【連絡会及び学部会実施時】					B
			「個別の緊急時対応マニュアル」の定期的な確認とシミュレーション実施【学期1回以上】					A
	中	個々の生徒の詳細な実態把握と社会を生き抜く力の定着を見通した指導	個々の緊急時に備えた「個別の緊急時対応マニュアル」確認とシミュレーション実施【学期1回以上】	A				B
			ヒヤリハットやけが・事故報告を踏まえた支援体制の見直し及び危機管理に対する意識向上【朝の学部連絡や定期的な学部会実施時】	B				
			身辺自立に向けた指導の充実【随時】	B				
	高	卒業後の進路を見据え、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばすための教師の専門性を踏まえた教育の充実	教育課程や各指導計画内容のつながりについて検討及び整備と実践【随時】	B				B
			各教員の取組や専門性に基づく実践等の共有及び専門性向上のための学部研修の実施【月1回】	B				
			校内支援コーディネーターや外部専門家等との連携による、生徒一人一人の実態に応じた自立活動の指導の充実【随時】	A				
教務課	研修課との連携による教育課程実践交流会の実施及び教員の授業力向上と児童生徒の学びの充実	教育課程実践交流会に向けた研修課との連携と円滑な運営の検討・実施【月1回】	A	A				
		個別の指導計画における観点別評価【年2回】とそのための研修の実施【2回】	B					
		年間指導計画や単元計画を個別の指導計画に関連付ける活用方法の検討【3回】	A					

教務部	庶務課	PTA活動の円滑な運営と広報活動・ボランティアの充実	PTA役員と担当職員との密な連携と協働【行事毎】	A	A	A	ホームページの運用について、デザインの改善やシステムを操作できる人を増やすなど充実した形で安定して運用できるように努める。 ボランティア養成講座の受講者・登録者を増加できるような取組の充実に努める。
			ホームページの継続的な更新作業と内容の充実【随時】	A			
			ボランティア養成講座の開催等ボランティア増加のための取組の充実【年4回】	B			
情報管理課	タブレット端末、各種PC、ネットワーク、貸出機器の適切な管理及び校務や学習場面での活用推進	一人一台タブレット端末や周辺機器の点検・環境整備【毎月1回】	A	A	A	校務用NWフォルダの容量がすぐに残りわずかになりデータの保存に支障がでてきている。そのため、データの精選やフォルダの整理に取り組んでいく。また、外付けHDの活用を確認する。	
		学習や業務効率化に伴うアカウントの取得及び活用促進【随時】	A				
		生徒FS、校務用NWフォルダの使用状況の把握と整理【学期毎】	B				
進路指導部	進路指導課	児童生徒一人一人の段階的なキャリア形成による進路実現	教員向けの進路情報の共有と研修の充実【毎月】	A	B	B	「進路情報シート」の作成・公開により教員向けの情報提供を充実させることができたが、その適切な運用について課題が残った。研修や外部機関との連携については、今後の方向性を検討し、計画をつくることができた。
			外部機関との円滑な連携のための提供情報の整理【学期毎】	B			
			系統性のあるキャリアパスポートの活用【学期毎】	B			
児童生徒指導部	児童生徒指導課	生徒指導上の諸課題への未然防止の取組と迅速かつ組織的な対応及び安全対策の充実	いじめ防止の計画的な取組（アンケート等）及び対応等の全体周知の徹底【月1回・随時】	A	B	A	防災教育について、実施方法等を再度検討し、より良いものにしていく。SC等の外部連携については、更に充実できるように計画していきたい。業務内容や各マニュアルについても、引き続き充実させていく。
			SC・SSW・SS等の関係機関との連携及び情報共有【随時】	B			
			専門機関と連携した防災教育や安全確認の実施【随時】	B			
	交通管理課	児童生徒の通学方法の適切な管理及び関係機関との連携並びに、本校を利用する車両の効果的な交通整理	乗車指導や巡回指導の情報共有及び、児童生徒への安全指導【年4回（乗車指導）、週2回】	A	A	A	次年度に向けて綿密な通学バス運行計画を作成することができた。車内の課題等を記録したり、各学部や学年への連絡と乗車指導の調整等を迅速にしたり、運行時の車内の情報共有について更に努めていきたい。
			自力通学、単独通学生徒の通学路の安全点検の実施【随時】	A			
			月別行事予定表に基づく職員駐車場の管理と環境整備【随時】	B			
保健課	児童生徒の健康の保持増進を図る保健教育及び健康管理	健康観察【毎日】、身体測定【学期毎】、各種検診【年1回】による児童生徒の健康状態把握	A	A	A	次年度に向けて安全な給食提供を行うために、食物アレルギーの対応品目の整理と保護者説明会を実施した。 次年度は性に関する指導の充実や緊急時対応マニュアルを更に活用しやすくするための見直しを実施する。	
		学校の衛生管理に向けた職員清掃【週1回】と消毒の実施【随時】	B				
		緊急時対応マニュアルに基づく救急処置における校内体制の整備【年2回～3回】	A				
研修・支援部	研修課	育成する資質・能力や人権教育に関する理解の深化	教育課程実践交流会実施に向けた各係の業務分担や進捗状況共有の場の設定【随時】	B	B	B	学校教育研究と校内研修の業務内容の整理や役割分担を行い、理解と実践がつながる研修を目指す。 人権教育については、講師を招聘し、個別の人権課題に関する研修を実施する。
			単元指導計画における学習評価の在り方の検討【随時】	B			
			人権教育指導者用手引きの周知【年1回の研修及び随時】	A			
	支援課	児童生徒への支援の充実及び職員全体の専門性の向上	教員及び児童生徒への支援体制向上のための校内支援Coの授業巡回【各学部週5回程度】	B	B	B	夏季相談会後のフォローアップ体制を確立し、県の巡回相談につなぐ。 校内支援体制を整えるため、学部に詳しい人材を校内支援Coに配置し、任命時期を見直したり、校内人材バンクを積極的に活用したりする。
			具体的支援方法明確化のための実態把握や校内人材バンクの効果的な活用【随時】	B			
			太宰府市、筑紫野市、近隣高等学校における夏季相談会の充実【夏季休業中に実施】	A			
事務部	安心安全に活動できる施設・設備の充実	施設・設備の定期点検及び修理・整備【随時】	A	A	A	開校から14年が経過し、経年劣化による補修箇所が増えてきたが、随時対応することができた。	
		教職員と連携した必要な設備等の予算要求【随時】	A				
	学習活動に必要な教材・教具の充実	教務担当者と連携した必要な教材・教具の充実【随時】	B	A	A	適切な予算執行計画を立てることにより、確実な施設設備の整備・物品等の充実に努める。	
		教職員と連携した物品等の点検・修繕【随時】	A				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見